

2025上田未来会議

第2グループ

～教育・学習～

構成

- ①議論の流れ(概要)
- ②結論
- ③議論の経緯
- ④スローガンの説明

①議論の流れ

- 教育・学習→こどもを対象と決定→教育・学習そのものよりも基盤をどう作るかに焦点を当てる方針へ→子供の居場所を作ることが重要
- →第3のコミュニティ(居場所)に着目→こどもとおとなが関われるコミュニティをつくるには？
- 条件:親や先生以外のおとなと子供が関われる。
:こどもが安心感をもてるコミュニティにする。

②結論

- 突然ですが、結論を発表します。私たちが立てたスローガンは

● あいさつ、しよう！

です

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 こどもに焦点をあてる

- 誰を対象にするのか、についてグループで話し合った結果
- 「こども」に重点をおいて議論することに決定。
- 理由：
 - ①こどもはおとなよりも発達段階にあり、より教育・学習の影響を強く受ける。
 - ②今のこどもたちが未来の上田市を作る。
 - ③こどもの方がおとなよりも意見を発信できる場所が少ない。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 はじめに

- 教育・学習というテーマで集まり、テーマ決めが難航しました。理由は様々な立場から見ている「子どもの問題」が異なっていたからです。
- 経済的な困難を抱える子どもの学習環境の確保
- 不登校の子どもたちの居場所
- 保護者の収入における体験格差などなど
- 結論、我々は問題を一つに絞ることが出来ませんでした。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

子供の教育・学習

- 教育・学習をテーマにしてはいるものの、私たちは教育の専門家ではないし、ほとんどの上田市民も教育のプロではない…
- →みんなが実践することがむずかしい…
- →教育・学習であれば学校や塾が実践しているので我々にできることはそう多くない。
- →新たな教育サービスの提供も予算・人員の都合から難しい。

「あいさつ、しよう！」 ③議論の経緯

教育から居場所へ

- 教育・学習の課題を直接解決するよりも教育・学習を支える土台を作ることが重要ではないかと考えた。
- こどもが今抱えている問題に焦点をあてる。
- いじめ、スマホ利用時間が長すぎる、学校に行きたくない、クラス替えがなくて同級生が毎年変わらない、兄弟姉妹との仲があまり良くない

こどもの孤立化！

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 居場所からコミュニティへ

- こどものコミュニティの現状
- 学校と家庭の2カ所が主な居場所(コミュニティ)
- 学校の同級生と合わなかったり、両親と打ち解けられない



こどもの孤立化が起きてしまう

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 居場所を探そう

- その中で、子どもたちの居場所のためには何が必要か？という議論を進める。



- その一つとして、家族、学校以外のコミュニティーがどんな環境の子にも必要という点で合致。
- さらにコミュニティーとは何か？という観点で話していった中で「第3のコミュニティ」というキーワードが生まれました。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

第3のコミュニティ

- 第3のコミュニティとは？
- サードプレイスとも呼称される。
- 大人の場合→家庭・職場以外の居場所のこと
- アメリカの都市社会学者レイ・オルデンバーグ氏が提唱。
- 居心地よく過ごせる場所の必要性が求められている現代社会において注目され始めた概念。
- サードプレイス(第3のコミュニティ)と地域を結びつけられないだろうか？

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

地域とコミュニティ

地域がもつコミュニティの役割の再検討

- 大勢のひとたちと継続的に関わることができる。
- 助け合いの文化
- イベントやお祭りなど共同でひとつのことを成し遂げる。
- 地域に所属することでアイデンティティの獲得や所属意識をもつことができる。

「あいさつ、しよう！」 ③議論の経緯

地域とコミュニティ

- こどものためのコミュニティづくりに何ができるだろうか？

子ども食堂やこどもフェスティバルなどを検討。



- 運営にかかる費用や時間、必要な人員などを考慮すると継続して続けるのがむずかしい…
- ここで一度挫折しかけてしまう……

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 ひたすら意見交換

こどもっていうよ
り親の問題？

子供って放課
後何をしている
んだろう

クラス替えが子
供達に与える
影響は？

公園って今の
子供たちは使
うのかな

最近あいさつ
減った？

そういえば子供
を見ないな

子育てが親だ
けのものだと思
われている

今と昔で学校
はどう変わっ
た？

子どもをみんな
で見守るに
は？

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯 発見したこと

気づいたこと

- かつては地域や親戚、近所の大人との挨拶を通じて、多様な価値観に触れられ、世界を広く保てていた。
- しかし、防犯意識の高まりや社会の分断によって挨拶文化が弱まり、子どもの世界は家庭と学校に閉じ込められ、逃げ場が見えにくくなってしまった。
- その一方で、大人はインターネットや職場・趣味を通して別の関係をつくれるため、子どもが置かれている環境の脆さに気付きにくい。
- キーワード:あいさつ

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつと防犯

- あいさつが持つ防犯効果について
- みんなで議論を進めた結果、あいさつは単なる礼儀作法を超えて、地域の安全を支える重要な防犯活動になるということに気がつきました。
- {こどもの視点からみたあいさつの効果}
- →あいさつをしない場合
- 地域の人と不審者の区別がつかない。
 - すべての大人が「知らない人」として認識される。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつと防犯

- あいさつをする場合
- →日常的に顔を合わせる地域の人を認識できるようになる。
- →地域住民と不審者の区別ができるようになる。
- その結果、違和感や危険を察知する能力が高まる！

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつと防犯

- {地域住民の視点からみたあいさつの効果}
- あいさつはお互いの存在を認識し合う行為であり、顔を合わせることで相手への認識が変化する。
- あいさつをしない場合
 - →「近所を歩いている小学生」という漠然とした存在。
- あいさつをする場合
 - →「こんな特徴をもっている小学生という具体的な存在」「リアルな存在」

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつと防犯

- 少しリアルになることの防犯価値
- 少しリアルになる効果こそが、防犯上の重要なポイントになる。
- こどもが「知らない他人」から「ちょっと知っている子」に変わること
- → 普段と違う場所や時間帯で見かけた際に違和感を感じやすくなる。
- → 異常な状況への気づきの確率が高まる。
- → 地域全体での見守り効果が向上する。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつと防犯

- まとめ
- あいさつという日常的な行為を通じて、こどもは地域の安全な大人を認識し、地域住民はこどもたちを「顔の見える存在」として把握できる。
- この相互認識が、登下校時をはじめとする日常生活の安全性を高める基盤になっていくと考えられる。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつとコミュニティ

- ひとがコミュニティやつながりを感じるのはどんなときだろう？
- 自分の存在が他人に認知されたとき
- 物理的に他人と近いとき
- 組織の一員であると実感できたとき

↓↓↓

- あいさつがコミュニティ作りの一歩になる！！

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつとコミュニティ

- 私たち自身のあいさつについても振り返ってみました。
- 「職場ではかならずあいさつをするようにしている」「近所でひとと出会ってもあまりあいさつしていないかな。」「学校ですれちがっても無言のことが多い」「そもそも意識したことがなかった」など
- あいさつについてさまざまな意見を集めることができた。

「あいさつ、しよう！」③議論の経緯

あいさつとコミュニティ

- 「挨拶の回数が減っている」
- 「挨拶の指導が変わった時期がある」
- 「挨拶の意味ってなんだろう？」
- 「あいさつをすれば関係人口を広げることができるかも」
- →そこで我々は気づきました。子どもに求めるのではなく大人からできるようにならないといけない。

あいさつ、しよう！③議論の経緯 まとめ

- 大人が自然と挨拶をする
- →こどもたちも自然と挨拶をする
- →こどものいる光景が日常となるため、こどもたちは地域のなかに所属意識を持つことができる。
- →こどもにとって学校・家庭以外の場所が生まれる。
- →こどもの居場所ができる。→こどもが安心して暮らせる→こどもが学業に励みやすい環境が整備される。

あいさつ、しよう！

- 「子どもを取り巻く問題」として議論を始めた。



実際には我々の問題

「あいさつ、しよう！」④理由

- なぜこのフレーズになったのか。理由は3点
- ①みんなができる
- ②すぐにできる
- ③ずっとできる

「あいさつ、しよう！」④理由

- ①みんなができる
- 子供の支援にはさまざまな方法がある。
- 例：子ども食堂や体験活動など
- →なかなか時間がとれないし、継続的に関わるのがむずかしい・・・
- →色々な活動があることは知っているけど全てを把握することはできないし活動の詳細を知るのが面倒・・・

「あいさつ、しよう！」④理由

- ②すぐにできる
- 特別な資格や特技は一切不要！
- おはよう、こんにちは、ありがとう。これだけでOK！
- 今日からできる。

「あいさつ、しよう！」④理由

- ③ずっとできる
- イベントを実施する場合

企画→準備→調整→実行→後片付け→次回へ

- あいさつの場合
「おはよう。」これだけ！

「あいさつ、しよう！」④理由

- その他
- 費用がかからない
- 説明が簡単
- 初めは形式的であっても大丈夫！

「あいさつ、しよう！」④理由まとめ

- すれ違ったときに軽く会釈をする、見かけた子に「おはよう」とだけ静かに添える——返されなくても構わない、小さな一声が十分です。完璧さも勇気も必要ありません。ただ「あなたの存在を見ていますよ」と伝える、その一瞬が、子どもにとって世界が広がるきっかけになります。大人一人ひとりの形式的な挨拶が、地域を少しずつ温かい場所へ変えていきます。

「あいさつ、しよう！」

- おはよう
- こんにちは
- こんばんは
- この3つで地域が変わる！！

「あいさつ、しょう！」

- ご清聴ありがとうございました。